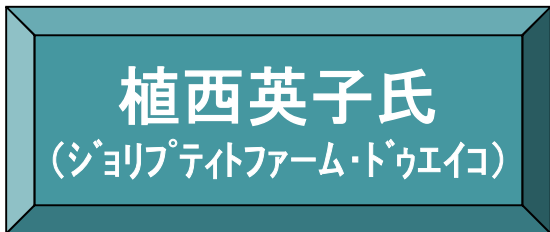


## 就農事例



調査日	令和4年1月(就農後11年目)
所在地	小豆郡小豆島町
経営主	植西英子
主要事業	オリーブ栽培 オリーブ加工製造・販売 簡易宿所営業
主要作目	オリーブ 82.07a <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">オリーブオイル オリーブ新漬け オリーブの化粧品 オリーブ塩</div>
就農タイプ	新規就農(新規参入)
就農時期	平成24年
労働力	本人 1名 臨時雇用 2~3名

## ヒストリーあらすじ

・植西氏は東京都立病院で35年間臨床検査技師として勤務していた。小豆島町が実施している移住体験や農作業体験に参加し、定年退職後に小豆島へ移住した。「オリーブ100年祭」で小豆島に旅行に来て、セミナーに参加したことがオリーブへ興味を持ったきっかけだった。農作業体験でお世話になったアグリサポーター(オリーブ・果樹栽培農家)の丁寧な指導により、オリーブ栽培に取り組んだ。当初、農地の確保は難しく、古民家を購入し、小豆島に根付くことを決めたこともあり、自治会の方の協力を得ることができ、166㎡でのオリーブ栽培の開始となった。

・新規就農期間は、様々なセミナーに参加し、知識と栽培技術を身に付けることに努めた。オリーブは新植してから実を収穫し、オイルを搾油できるまで(最低50kgの実の収穫)に4年程度は必要となる。関係機関や民間企業に相談し、サポートを受けながら新漬けやお茶、塩など6次産業化に取り組んだ。さらに、オリーブ栽培に長い歴史があるイタリアに行き、歴史や栽培、オイルの品質について学ぶために、Accademia dell'olio(アカデミアデルオーリオ)でオリーブオイルソムリエ養成コースを受講し、オリーブオイルソムリエの資格を取得した。

・平成29年に、念願だったオリーブの化粧品の製造・販売を始めた。そのため、HPの開設とネット販売を同時期に開始した。さらに簡易宿所営業を取得し、オリーブの収穫体験ができるメニューで民泊を開始するなど、経営の多角化に取り組んだ。

### エッセンス

●夢の実現に向けて大切なことは、取り組む姿勢を示すこと

・県外からの移住者かつ女性単身だからか、農地の確保が難しかった。小豆島でしっかりとオリーブ栽培を続けていくとの意思を示し続けた。  
・アグリサポーターや研究会員など様々な人と積極的に交流し、技術を学ぶ意欲を示した。また、オリーブ栽培6000年の歴史のあるイタリアで、ソムリエの資格を取得するなどスキルアップに努めた。

●経営の多角化を目指して、必要な設備投資は惜しまずに

・新規就農し、オリーブ栽培で経営を発展させるために、農地を確保し、新植に努めた。機械の導入や雇用は時期を逃さずに行った。  
・オイルや新漬け、塩、化粧品など6次産業化にも取り組んだ。加工所の整備費や簡易宿所営業に必要な改築・修繕などにも取り組み、環境を整えた。収益が少ない時期の設備投資が大きく、就農初期での自己資金の必要性を感じた。

●自分の農業への思いを伝える場を持つこと

・ネット販売やふるさと納税の返礼品など顧客の幅が広がってきたので、顧客ニーズをとらえ直す必要がある。HPや農作業体験の実施など、消費者と交流する場の更なる工夫、企画が必要と思う。  
・生産者と消費者が、オリーブ収穫や搾油過程を協働することで、生産の喜びを共有したい。

●移住体験で見つけた小豆島でのオリーブ栽培の夢！



●本格的な就農  
～ジヨリアタイトファーム・ドウエイコ開業～

●オリーブによる6次産業化への取組み



●簡易宿所営業を取得し、オリーブ収穫体験を行う。農業の楽しさ、栽培者にも消費者にも安全で、安心して食べれるオリーブオイルづくりを理解してもらえる企画です。



●Accademia dell'olio(アカデミアデルオーリオ)でオリーブについて学ぶ

●オンリーワン商品によりさらに付加価値を高めたい♪

## 植西英子氏 ヒストリー

就農前 平成20年～平成23年	就農期 平成24年～平成28年	確立期 平成29年～令和3年	発展・将来展望 令和4年～
<p><b>●夢の実現に向けて～移住～</b></p> <p>・夢を実現させるためには様々なリサーチが必要だと感じた。</p> <p>移住するまでに2年、就農するまでに3年様々なリサーチを行った。実際に小豆島で「田舎暮らし体験」に参加し、自主的にも農作業体験をさせてもらった事が「何とかできそう」と移住を決めるのに役立った。 町の職員や地域の方々からいろいろな情報をもらった。</p> <p><b>●就農に向けて、農地の確保</b></p> <p>・小豆島の特産オリーブの栽培に興味を持ち、栽培農家との交流をきっかけに、オリーブ栽培で就農したいと考えるようになった。</p> <p>東京から女性一人での移住だからか、農地を借りれず、実現したのは約1年後。 農地確保のきっかけとなったのは、家を購入したこと。小豆島に根付くという意志が周囲に伝わり、同じ自治会の人から初めて農地を借りることができた。</p> <p><b>●知識や技術の習得</b></p> <p>・アグリサポーター(香川県嘱託)や普及センター等から栽培技術の指導を受けた。近隣の畑の先輩農業者からも教えていただいた。</p> <p>移住前の農作業体験、移住後のアグリサポーターの方から適切な指導を受けた。 また、県や市町が主催する農業研修に参加することで、広く人間関係を構築でき、知識情報の取得が出来た。</p>	<p><b>●本格的な就農</b> ～ジオリテイトファーム・トウエイコ開業～</p> <p>・農業を本格的に始めるために、自己投資や設備投資に時間とお金を使う重要な時期となった。</p> <p>オリーブの歴史や栽培、オイルの品質について知識を得る為、様々な機会を逃さず、積極的に行動した。 研究会や部会に加入し、講習会や交流会に参加、オリーブ生産者とのつながりを深めていった。 この間に、農地を1.6aから84aにまで拡大することができた。オリーブの新植を行ったり、オリーブオイルソムリエの資格を取ったりと、将来に向けた基盤づくりに努めた。</p> <p><b>●オリーブによる6次産業化への取り組み</b></p> <p>・新植オリーブが結実し、収穫でき、オイル搾油できるまでに概ね4年以上が必要。その間に販売でき、売り上げを上げる商品として、お茶、新漬け、オリーブ葉塩の商品を開発した。</p> <p>この時期、オリーブの実の収穫量はまだまだ少なく、搾油機を導入するのは早計であり、他法人に搾油作業のみ委託してオイルの販売を行っていた。 また、香川県よろず支援拠点や民間企業の協力を得て、オリーブ製品の製造に取り組んだ。</p> <p>販売は、オーナー制度をとり、予約販売を行うことで、製造販売量の把握や資金の確保を行うことができた。</p>	<p><b>●農業の多様性に引き込まれて</b></p> <p>・新植したオリーブも収穫が始まり、経営も軌道に乗ってきた。 ・農業の多様性に新たな経営の展開も考え始めた。</p> <p>移住して7年が経過し、認定農業者に認定された。また、日本オリーブオイル品評会においてエキストラバージンオイルで銀賞を受賞するなど、周囲からオリーブ栽培の担い手として評価されるようになり、経営が確立してきたと感じた。 さらに、自然と共生したオリーブ栽培を行ううちに農業に多様性を感じ、宿泊しながらオリーブ収穫を体験し、自然や農業の良さを知ってもらおうと新たに農家民宿にも取り組んだ。</p> <p><b>●自分の思いを伝えるために</b></p> <p>・就農当初より念願だったオリーブ化粧品品の製造・販売を開始。自然と共生した、循環型農業を目標に取り組んできた思いを伝える場を持ちたいと考えた。</p> <p>ホームページの開設とともにネット販売の開始やふるさと納税の返礼品への採用など、商品を提供する顧客の範囲が広がったことで、自分のオリーブ栽培に対する思いをきちんと伝える必要性を感じた。 さらに民宿を経営することで、オーナーや商品の購入者に農業を体験する機会・場所を提供でき、収穫の楽しさ、栽培や農業の大変さについても伝えることができるようになった。</p>	<p><b>●さらなる高付加価値をめざして</b></p> <p>・オリーブオイルのさらなる高付加価値化に向け、加工場の設置と搾油機の導入を図る。 ・自己資金に限らず、補助事業や制度資金を活用し、経営の発展を目指していく。</p> <p>オリーブオイルを自分が搾油する環境を整える。自家農園で就農以来除草剤不使用で栽培してきたオリーブでさらに個性化・オリジナルをめざす。付加価値を高め、販路を拡大していきたい。</p> <p><b>●オリーブ栽培を希望する人へのサポート</b></p> <p>・「オリーブの学校」の実現を目指す。 構想： ★オリーブ栽培者の技量の向上でオリーブ産業の発展を目指す。 ★食糧自給自足の一端を担えるよう、未来を見据えた楽しい農業。</p> <p>自分が移住し、就農を目指したころを忘れず、オリーブで就農を目指す次の担い手と交流し、つながってゆきたい。 自然と共生したオリーブ栽培。かつ収穫量の増加、品質の向上等、同じ考えを持つオリーブ生産者とともに学び実践できるよう、セミナーを企画していきたい。 イタリヤの6000年の栽培方法を学んだり、持続可能な環境を配慮した、未来を見据えた楽しい農業に取り組んでいきたい。</p>

## 植西英子氏〈課題と対応策〉

フェーズ		就農前 平成20年～平成23年	就農期 平成24年～平成28年	確立期 平成29年～令和3年	発展・将来展望 令和4年～
主な出来事		<p>&lt;H20年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリーブ植栽100年記念で開催されたオリーブセミナーに参加し、オリーブに興味を持った。</li> </ul> <p>&lt;H21年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母の思い出の地である小豆島での移住体験に娘とともに参加し、空き家バンクの紹介で移住先候補を見つけた。(家族の同意確保に向け)</li> <li>・オリーブ農家での栽培体験を実施(植えつけ、剪定)し、移住とオリーブ栽培について考えた。</li> </ul> <p>&lt;H22年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退職と同時に小豆島で就農することを決意し、4月25日に小豆島へ移住した。</li> </ul> <p>&lt;H23年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリーブ栽培のための農地を探し、賃借できた。</li> </ul>	<p>&lt;H24年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シヨリアイトファーム・ドウエコで開業届を提出・起業し、本格的に農業経営を開始した。</li> <li>・オリーブの歴史や栽培、オイルの品質について学ぶために、イタリアに行き、Accademia dell'olio(アカデミアデルオリオ)でオリーブオイルソムリエ養成コースを受講。</li> <li>・オリーブオイルソムリエの資格を取得した。</li> <li>・瀬戸内オリーブ研究会に加入。</li> <li>・オリーブで6次産業化に向け、商品開発を行った。(オリーブ茶、テーブル菓塩)</li> </ul> <p>&lt;H25年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA小豆島果樹部会に加入した。</li> </ul> <p>&lt;H28年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧品を試作を始める。</li> <li>・オリーブオイル官能評価員に選任される。</li> <li>・食用オイル用に白い瓶の意匠登録を完了した。</li> </ul>	<p>&lt;H28～29年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊のための改装を行った。</li> </ul> <p>&lt;H29年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者となる。</li> <li>・オリーブ化粧品の販売を開始した。</li> <li>・ホームページを開設した。</li> <li>・ネット販売を開始した。</li> <li>・簡易宿所営業を取得し、オリーブの収穫体験ができるメニューを作り、民泊を開始した。</li> </ul> <p>&lt;H30年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かがわJU就農体験企画により就農希望者の体験を受け入れた(収穫体験とオイルのテイスティング)。</li> <li>・日本オリーブオイル品評会でエキストラバージンオリーブオイル部門で銀賞を受賞した。</li> </ul>	<p>&lt;R4年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地が82.07aにまで増加する。</li> <li>・オリーブオイルのさらなる高付加価値化に向け、加工場の設置と搾油機を導入する。</li> <li>・収穫状態によりさらにオイルの高品質化を図り、オリジナル商品の展開を考える。</li> </ul>
経営課題	ヒト・組織	・移住して農業経営開始	・本人+臨時雇用	・本人+臨時雇用(臨時雇用予算増(1期))	・本人+臨時雇用(臨時雇用予算増(2期))
	土地・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の仲間による農地の提供</li> <li>・農地約1.6a(2か所)から開始</li> <li>・管理機を購入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地約84a(8か所)に拡大</li> <li>・管理機2台、刈払機を譲り受けた</li> <li>・動噴4台購入</li> <li>・灌水用に水道設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地約68aに減小(畑灌水の設備が無かったり、車を入れる道の接道が無く、施肥や機械の持ち込みが難しい農地2か所を返還)</li> </ul>	・農地約82a(7か所)にまで復活
	カネ	・自己資金の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己資金の活用</li> <li>・新植もあり雇用費がかかった</li> <li>・加工所や納屋の整備、民信用の修繕など設備費がかかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己資金の活用</li> <li>・新植や設備投資が一段落し所得がプラスに転じたが、害虫や獣害で枯れた木も出てきて、植替えなど基盤整備が必要になり、新たな経費が発生</li> <li>・コロナ関連の補助金(R2～3年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本政策金融公庫などからの「つなぎ融資」をうけながら、事業を拡大する</li> <li>・加工場や搾油機導入</li> </ul>
	技術・ノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリサポーター、オリーブ研究所、普及センターの支援で技術や簿記の習得</li> <li>・農業生活体験プログラムに参加</li> <li>・かがわアグリ塾を受講し、農業全般について研修を受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県よる支援拠点や民間企業の支援により、オリーブ製品の製造に取り組み</li> <li>・アグリサポーター、オリーブ研究所、普及センター、町の支援で技術や簿記の習得、農地確保</li> <li>・Accademia dell'olio(アカデミアデルオリオ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリサポーター、オリーブ研究所、普及センター、町の支援で技術や簿記の習得、農地確保</li> </ul>	・アグリサポーター、オリーブ研究所、普及センター、町の支援で技術や簿記習得、農地確保
	販売・販路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA出荷(実)</li> <li>・オーナー制度を、H23から8名で始めた</li> <li>※オリーブの収穫に合わせて、年末にオリーブセットを予約販売、販路は、主に東京の友人関係</li> </ul>	・オーナー制度(H28に50名を超えた)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーナー制度と並行し、ネット販売を始める</li> <li>・ふるさと納税返礼品に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーナー制度(69名～)</li> <li>・ネット販売</li> <li>・ふるさと納税</li> </ul>
	情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小豆島町企画財政課や農林水産課の支援で移住・農業体験、農地の確保</li> <li>・関係機関、アグリサポーターの方から栽培関連の情報を入手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関、アグリサポーター、研究会や、Foodexなど見本市への参加により栽培関連の情報を入手。</li> <li>・ネット検索</li> <li>・研究会や部会による情報提供</li> <li>・Accademia dell'olio(アカデミアデルオリオ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊開始に当たり、保健所等関係機関に相談し、許可を受けた</li> <li>・関係機関、アグリサポーター、研究会等より栽培関連の情報を入手</li> <li>・ネット検索</li> <li>・自社HPやFacebook、ふるさと納税関連HPにより情報を発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関、アグリサポーター、研究会等より栽培関連の情報を入手。</li> <li>・ネット検索</li> <li>・自社HPやFacebook、ふるさと納税関連HPにより情報を発信</li> </ul>
	地域	・小豆島町草壁、安田、蒲生、吉野	・小豆島町草壁、安田、蒲生、吉野、平木、上地、池田	・小豆島町草壁、安田、蒲生、吉野、上地、池田	・小豆島町草壁、安田、蒲生、吉野、上地、池田
	具体的内容 (課題の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住先や就農についての悩み</li> <li>・県外からの移住者かつ女性単身での就農ということもあり農地の確保が難しかった</li> <li>・オリーブ栽培についての知識や技術の習得</li> <li>・農業全般、農業経営に関する知識を習得した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と共生した、循環型農業が目標であり、就農以来除草剤不使用・低農薬で栽培を続けている。これらのこだわりが示せる独自の商品づくり</li> <li>・消費者に信頼される栽培技術と加工技術の習得</li> <li>・鳥獣(鹿、猪、猿)被害への対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃借した農地の条件や成木の状態が悪い</li> <li>・オリーブの栽培希望者からの相談を受ける</li> <li>・オーナーの増加</li> <li>・農業体験を生かした民泊経営</li> <li>・農業への理解、自分の思いの伝え方</li> <li>・獣被害によりオリーブが枯れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリーブオイルにさらに高付加価値をつけ、販路を広げる</li> <li>・融資の確保</li> </ul>
対応策 (課題にどう対応したか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小豆島での移住体験に参加し、空き家バンクの紹介で移住先候補を見つけた。</li> <li>・オリーブ農家での自主栽培体験。</li> <li>・オリーブ栽培のための農地の確保は難しかったが、家を購入し、小豆島に根付くことを周囲に示すことで、同自治会の人から借りることができた。</li> <li>・地元農業者からオリーブ栽培の技術指導を受けることができた。</li> <li>・県が実施する研修会に積極的に参加し、知識をつけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関や民間企業の支援により、オイル、新漬け、茶、塩を完成させた。</li> <li>・オリーブオイルソムリエの資格を取得</li> <li>・オリーブ栽培を継続することで、徐々に農地の確保ができ、規模が拡大した。</li> <li>・新植オリーブが収穫及びオイル搾油できるまで約4年が必要。その間に販売し、売り上げを確保できる商品として、お茶、新漬け、オリーブ菓塩の商品開発した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩農業者の紹介や町オリーブ課や農林水産課に出向き、農地の確保に取り組み、収穫量を上げ、効率的な管理ができるように図った。</li> <li>・認定農業者になることで担い手として認識されるとともに助成金等の活用を考えるようになった。</li> <li>・ホームページの開設やFacebookの活用通じて、オリーブ栽培や商品への思いを情報発信した</li> <li>・民泊を経営することで、オーナーや商品の購入者に農業を体験する場を提供した。収穫の楽しさとともに栽培環境や作業の大変さについても伝えることができた</li> <li>・獣被害対策の為、補助事業を活用して抜根及び新植、獣害対策を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全でおいしい、高品質のオリーブオイル作りにチャレンジしていきたい。</li> <li>・就農以来、除草剤不使用で栽培してきた自家農園のオリーブ。収穫適期に摘み取り、即日搾油することで、更に付加価値を高め売り上げも伸ばしたい。補助事業を活用し、加工場や搾油機の導入を図る。</li> <li>・「オリーブの学校」(構想:オリーブ産業の発展、食糧自給自足の一環の役割を担える。未来を見据えた楽しい農業)の実現を目指す。</li> </ul>	

持続可能な環境への配慮  
イタリアの6000年の栽培方法を学ぶ  
収穫量の増加と品質の向上  
共に学び、実践できるセミナーの企画